

ビール醸造で培ったバイオ技術を環境問題解決へ

サッポロビール株式会社では、地域環境の保全の視点と地球温暖化防止に資する技術貢献の観点から、1876年の創業以来ビール醸造で培った醗酵技術（バイオ技術）を発展させて、食品廃棄物や農業残渣を資源・エネルギーとして活用するバイオリファイナリー技術開発に取り組んでいます。

まず、製糖工場の残渣である廃糖蜜、バガス（サトウキビの絞りかす）を原料とする年産33,000klの大型バイオエタノール生産プロセスを、東南アジアの製糖企業に納入しました。



東南アジアにおけるバイオエタノールプラント

また、地域から発生する食品廃棄物のオカラや廃ポテトを原料にバイオエタノールを生産する設備を国内食品処理事業者に納めました。また、稲わら、廃木材などのセルロース系原料よりバイオエタノールを生産する技術の開発にも国内研究機関と共同で取り組んでいます。いずれの技術開発も製造実証試験に着手しました。



食品廃棄物を原料としたエタノールプラント

さらに、次世代バイオ燃料ともいえるバイオマスを原料とする水素の生産技術については、世界に先駆けたパイロット規模の製造実証試験を開始しています。水素の生産・利用技術は、経済産業大臣らによって取りまとめられた「次世代自動車・燃料イニシアチブ」にも盛り込まれており、我が国の未来戦略技術のひとつです。